



町長就任一年

テーマを決めての取り組みは

答 振興計画を作成

問 片岡政徳

大石町政の政策がはっきり見えない。自然と共生を考えるなら、植林を整備し動物のえさ場となる自然に戻すことが必要と考える。

視察した岡山県西粟倉村は「百年の森林構想」をテーマに百年先を見据え、2人の担当で森林整備、雇用につなげている。本町もテーマを決め、担当を置いては。

答 町長

林業プロジェクトチームを立ち上げ森林政策の研究、検討を開始し、「森の工場」など着実に推進。環境、生態系への影響を考え取り組んでいる。

地場産材流通促進に町産材の家補助金を新設、生産機器の拡充など、生産者の支援に努めた。

公共施設など積極的に整備、整理を進め、将来の財政負担を軽く、安心して暮らせる山里らしい魅力ある町づくりを図る。

問 片岡

事業名、テーマを決める方向に町全体が集中できる事業を打ち出しては。

答 町長

林業、農業のプロジェクトを設け検討し、振興計画を作成し進める。

白紙に戻し見直しを

答 引き延ばしできない

問 片岡

NTT跡地は、交通が危険で、基礎工事が多額、空き施設を含めた町全体の構想、町産材の活用など考慮すべき点が多い。池川保健センターへの移転の要望書も現在出ている。

本庁に近く便利だけの理由は安易ではないか。白紙に戻し見直しは。

答 町長

「とちの木園」社協事務所とも手狭で利用者に不便をかけている。池川保健センターが仮事務所であるが、分散し不便。事務の効率化、経済性、利便性が重要で、NTT跡地で進めたい。

要望書は、説明し理解を得たと考える。予算が通れば、課題、問題点は十分検討する。

建設の主体は町で、社協に貸し付け、管理費は社協負担と考えている。

問 片岡

要望書の説明は、理解していない。執行部は本庁、大崎診療所と、社協事務所を含めた整備構想が当然と考えるが。

答 町長

施設が手狭で急ぐ状況にあり、社協は福祉の重要な事業を持っており、引き延ばしはできない。池川保健センターは、手狭な「岩丸荘」の代替活用で理解を。建設の主体は社協で進めたが、他町村の状況も検討し町施設と決定した。



とちの木園 (吾川地区)

社協事務所



残り少ない日々

ました。私は中学校生活を楽しく過
ごしており、今年で卒業なんて思え

気がつけば、三年生としての生活
は、あと六ヶ月。早くも半年が過ぎ

ないくらいです。
四月からの学校生活は、普段の
様々な行事で毎日が充実していまし
た。だけど中学校での体育祭などの
行事も今年で最後だ
と思うと、少しさみし
くなります。
これからは何気ない
友達との会話を大切にして、悔いの
残らないように、一日一日を大切に
過ごしていきたいです。

吾川中3年 片岡 純梨



森の工場 (安居土居)

アマチュア無線

協力体制は

答 移動系防災無線



移動防災無線

問 片岡

町内のアマチュア無線
の利用者の把握と協力体
制の状況は。

答 町長

町独自の周波数が利用
できる移動系防災無線が
整備され、9月5日の防
災訓練で開始、順調であ
り本格的運用に向け進め
たい。無線利用者の把握、
協力体制も進める。



問

藤原陽三

県は、ポスト龍馬博の推進に今後の重点を置き、仁淀川流域全体の魅力を高め、域外にアピールする組織を整備する計画だ。

町にも地域の歴史を調べ、関連する人との交流を図り、地域の活性化に努めている者も居る。一次産業の振興も含め、ロマンのある町を目指す時が来ている。

答

町長

産業振興計画の地域アクションプランで、観光情報ネットワークの構築などにより、観光情報の充実を図り、滞在型観光の振興につなげるため、

地域の活性化を

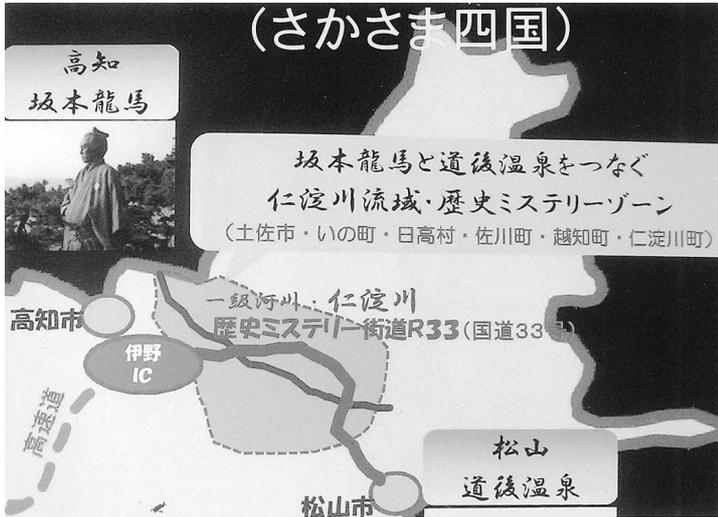
答

できる限り

広域観光組織の設立準備を進めている。

秋葉祭りや武田勝頼伝説などの観光資源を大いに活かし、さらに町の自然を活用した一次産業も

重要な要素であり、これらを含め主体性をもって交流を実施、計画している地域に対し、できる限り支援したい。



武田勝頼土佐の会パンフレットより

危険箇所は

答 各支所単位で

問

野村安夫

年に一回程度の危険箇所点検はするが、点検だけで終わっている。早期着工を。

答

産業建設課長

6月に危険箇所の点検(防災パトロール)を実施し、関係機関で検討し、県などに要望している。小さい災害、危険箇所は、各支所単位で取り組んでいる状況。

問

野村

狩山地区では、河川の浸食、土砂の流出が激しいにもかかわらず、チェックだけで終わっている。何とかならないか。

答

池川地域振興課長

被害の状況は把握しているが、復旧には多大な事業費を要するので、検討している。



防災パトロール (潰溜地区)

事業

災害は忘れた頃に

答 集中管理体制に取り組み

問

野村

町内の全家庭へ災害に遭遇した時の心構え、備えの周知を徹底してほしい。

答

総務課長

各自主防災組織では、災害発生時に、要援護者と早めに避難することや一時的な避難場所の決定、初期消火、負傷者への援助などの対応策や心構え

問

野村

災害時の無線使用は混線しない利用をしてほしいが。

を話し合っており、組織を増やすことが、周知につながると考える。

答

総務課長

消防無線は、広域管内三町が同一周波数を使用しており、チャンネルを増やすのは困難。防災訓練や災害時には混線は避けられない。当分は、簡潔、明瞭な通話交信方法で対応する。

問

野村

防災訓練は、地域内、地区隔々まで、実施すべきでは。

答

総務課長

訓練は18年からの実施で延べ参加人数は2970人。少しでも多くの住民に参加してもらえよう努力する。

問

野村

災害時、避難場所が分からない人がいる。「災害は忘れた頃にやってくる」住民の生命、財産を守ってほしい。

答

総務課長

防災計画書を見直し、

避難場所などの集中管理体制に取り組み。



防災訓練



防災訓練 (吾川地区)